

衆生にかけられた
大悲は無倦である

呼びたくも
呼ぶことならぬ
ガラス戸に
息吹きかけて
母とかくなり

私は教誨師(教え諭す)を
させていたでいています。
時々奈良少年刑務所に教誨
にまいります。その控え室
の柱に短冊に書かれている
のが前記の和歌です

ふるさとの
栗もくるみもうれたれば
おまえを思うと
母の文くる

かくまでも
なげきたまいぬ
吾ゆえに
日毎ふえゆく
母の白髪

母の愛がこんなにも深いも
のであったかと獄舎で知り、

涙と悔恨の念の中で、母の
名を呼ぶ少年のせつない姿
それは「何につけてもおま
えを思う」と慈愛あふれる
親心に接したが故に、呼ば
ずにはおれなかつたのであ
りましょう。

心の中で「かあさん」と呼
んだのは紛れもなく少年で
すが、呼ばしめたもの、そ
れは息子を思い、寄り添い
続けている母の呼び声であ
りましょう。

「煩惱障眼雖不見
大悲無倦常照我」
(煩惱、眼を障へて見たて
まつらずといへども、大悲
倦きことなくして、常に我
を照らしたまふといへり)

が思い起こされます。私は
『正信偈』を拝読させてい
ただくとき、この段になる
といつも胸にあたたかいも
のを感じます。

大悲とは、生死の迷いと
我執に生きる罪濁の我ら群
萌に寄り添い、その姿を悲
しみ目覚めさせようとする
限りない如来の営みであり
ます。

自分で自分の根本問題を
どうすることも出来ない者、
そこに大悲の本願がはたら
くのです。その大悲は休む
ことなく倦むことがない。

ことなく倦むことがない。
何故なら、苦悩の衆生のあ
る限り無倦なのです

子に背かれた場合、一時的
には様々な感情がはたらい
ても、憎しみ続けることは
少ないようです。やがて悲
しみとなつて子の心に寄り
添う、だから「親の慈悲」
とも表現されるのでしょう。

それはたとえ徒勞に終わろ
うとも悔いしない願いと行い
です。それが悲母の心です
刑務所で、出所する前に青
年たちと面談する時があり
ます。「此処での生活で気
づいたこと」を聞いてみる
と、7、8割が親への感謝
です。はじめは「お前みた
いな者は」と厳しい眼差し
であった母親が、面会日に
足繁く通う。金網越しに親
子が出遇つた証でしょうか。

刑務所が編集した『奈良一
短い感謝の手紙』の中に、
お母さんへと題して

おかんすまん
こんな息子で。
どんな思いで電車に
乗って息子に会いに
来るのか。
感謝、感謝
有り難う おかん。
(23歳)

というのがありました。
倦くことない母の慈愛が
目に見えるようです
非行少年が獄舎のガラス
に息吹きかけて母と書き
母を呼んだのは、手紙を
通して息子の心に寄り添
い続ける倦くことなき母
の願心からでありましょ
う。その願心は少年が気
づいたときからではなく、
気づく前から呼び続けて
いた悲願です。

彼をして目覚めさせ悔恨
のうちに、真に生きよう
と転じさせた、その力こ
そ母の願いです。
奈良県 光専寺
真宗興正派 脇屋 好照

朝、夕のつらきつとめは、み仏の人となれよの、めぐみなりけり。

ホームページは「お墓のさんわ」で検索してください。

日出店：速見郡日出町川崎会下(空港道路入口) TEL (0977) 72-6415
三重店：豊後大野市三重町赤嶺1041(トリアル横) TEL (0974) 22-3301
森町店：大分市横尾2733-1(大東中学入口) TEL (097) 524-6525

さんわ便り

これは今年の夏の暁天講
座の際、47歳の奥さんが
癌で、それが手遅れでなく
なりました。その講座の時
は、まだなくなられていな
かった。この方が8月の半
ばになくなられました。
その方が今まで仏とも法と
も聞いたことがない。癌で
手遅れになって、私の知っ
ている奥さんから仏法を聞
かれた。それが28日間で、
それこそ速製で本当の自分
に会われた。つまり浄土に
生まれられた。これは死を
目前にしてなので、早かつ
たわけである。真剣に聴聞
して、死を目前にした人に
うそがあるわけではない。
その方がノートに書き付け
られていた言葉を、ノート
が汚れていたもので、娘さん
が書き写して、私の知って
いる奥様のところへもって
来られた。その人から借り

て、私が写しました。
それが非常に良い言葉です。
嘘つくはずのないものです。
その人を、今51歳の、私
の知っている奥様が説得し
た。その方がうまく説得し
た、といえは失礼なことだ
が、私の強調したいのは、
この説得はお寺でないとい
うこと。病室であるという
こと。説得した人がお寺さ
んでないということ。
念仏を食った人である。念
仏を食った人が念仏を伝え
る資格がある。そういう点
で、念仏を食った人から念
仏が伝わってくるものであ
るといふことは、この夏の
講座でも申し上げました。
仏法を伝えた奥様が自分の
心の中の醜さを言ったら、
「死にとうない、死にとう
ない」といつて心の安らか
になる道を求めている人に、
その説得する自分の醜さを

相手にぶつつけても何にも
ならぬ。だから病人は「貴
女の話は聞きとうない、聞
きとうない」といつて、
「もう来てくれるな、来て
くれるな」と言ったのだが、
この方はそういう時には病
室から出て、30分も外に
立ってまた病室に入って説
得した。私なら止む無く、
「縁なき衆生は度しがたし」
と逃げて帰っていくところ
であるが、よくも続けて説
法されたと思う。癌でなく
なつた奥様が、「いやいや
で、一度聞いたことが縁と
なり、人間の道に出して下
さつたあの方が貴い」
仏法を聞いて何になるか。
それはしゅうとめを恨んだ
り、小じゅうとを憎んで、
「死にとうない、死にとう
ない」といつていた。おそ
らくこわい顔をしていたが、
それが自分の「自我」であ

ることに気付いてから、
心安らかなり、顔も穏や
かになって、「いやいやで、
一度聞いたことが縁となり、
人間の道に出して下さつた
あの方が貴い」と。
「二日で一番楽しい時が来
た。あの方がみえる、あの
方が来られる」
今度はあの方が来られるの
を待つようになつた。
食事もおかゆぐらいで、仏
法を聞くことが一番楽しみ
になって来た。
「絶望の患いになつたれば
こそ、あの方の声が聞かれ
た。あの方の心が聞かれた。
この病を拜む」
説得した奥さんの心と言っ
ているのだけれども、それ
は説得した奥さんを通じて
働いている阿弥陀仏の声が
聞かれた。そしてこの病を
拜む。病が一番いやでなら
なかつたのが、病みついた
ればこそ、人間になる道を
聞くことが出来た。

「耳新しいことばかり。け
れども行きつく先は悪い、
すまないことでありました」
死を目前にした人が、悪い
すまない私であつた、毎晩
のように28日間この人が
やつて来て、やつと夜明け
が出来た。それからあと、
話を聞いたが、一夜一夜、
同じでない。耳新しいこと
ばかり。同じことの繰り返
しにちがいないが、それが
すべて耳新しいことばかり、
"万劫(まんごう)の初ご
と"と言われるように。
しかし行きつく先は、悪い
すまない私のことでありま
す。初めて頭が無条件に下
がつて、仏を見つけたとい
うこと。あぶないところで
ありました。「皆様にうら
みを残して終わるところで
した。子に詫び、子にすま
ぬ中から、愚か愚かの念仏
で終わる母の幸せや」「知
らなかつた、知らなかつた。
大きな苦しみの裏側に、念
仏の幸せがありました」
「夜、静かなシーンとした
中で、秘かに私に会う。
一人はたのしい。色々の自
分が見えるから」 以下略
医学博士 米沢英雄先生

第161号
発行所
さんわグループ
編集 広報部
大分市森町